

授業科目名	忍ヶ丘教養 I	教員名	田中 幸子	免許・資格との関係	小学校教諭	
			菅 邦男		幼稚園教諭	
			渡邊 耕二		保育士	
山下 智也						
授業形態	講義	担当形態	オムニバス		こども音楽療育士	
科目番号	SIN101	配当年次	1年前期	卒業要件	小幼コース	必修
単位数	2単位				幼保コース	必修
科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等						
科目	教養科目（保育士）					
系列						
一般目標	<p>1年次から2年次までの2年間4期に渡って実施される忍ヶ丘教養の授業では、学校法人宮崎学園の建学の精神「礼節・勤労」にのっとり、豊かな教養と高度な技能を備えた人材を育成するために、大学での学びの基礎を学習し、コミュニケーション能力に優れた教育者となるための基盤を身につけることを目標とする。さらには、地域社会から国際社会にまで広く貢献できる教員となるために必要な基本的知識・技能及び人格形成を目指す。これらの目標を達成するため、忍ヶ丘教養では「大学での自主的・継続的な学習能力の修得」、「コミュニケーション能力の修得」、「地域・国際社会における教育の理解と教育者としてのキャリア形成」の各教育目標を達成するための授業を行う。</p> <p>このうち、忍ヶ丘教養 I は、「大学での自主的・継続的な学習能力の修得」をテーマとしており、以下の3つの到達目標を設定する。</p>					
到達目標	<p>(1) これからの大学生活を過ごす上で必要な大学教育の基本的事項に関する情報を修得する</p> <p>(2) 教職課程のカリキュラムを効率的に学習する上で必要な教育資源を活用する技術を修得する</p> <p>(3) 自主的、継続的な学習を進めていく上で必要な学習方法・学習スキルを修得する</p>					
授業の概要	<p>授業の構成は大きく3つに分かれる。まず、今後4年間の学びの場となる宮崎国際大学教育学部の概要や受講規則、大学生として期待される行動、大学における教育資源の活用方法について学ぶ。次に、ノートの取り方やテキストの読み方、レポートの書き方など、高校までとは異なり、大学の授業を受講する上で必要になる基本的な学習方法・学習スキルの獲得を目指した初年次教育の内容を学習する。最後に、大学において自主的、継続的な学習を進める上で必要な応用的な学習スキル（英語で書かれた専門書や文献の読み方、情報・文献の集約、整理、考察の方法など）の獲得と課題演習を通して実際に活用できるようになることを目指す。授業形態は講義とする。</p> <p>[田中 幸子／3回]</p> <p>今後4年間の学びの場となる宮崎国際大学教育学部の概要や受講規則、大学生として期待される行動、大学における教育資源の活用方法について学ぶ。</p> <p>[菅 邦男／4回]</p> <p>ノートの取り方やテキストの読み方、レポートの書き方など、高校までとは異なり、大学の授業を受講する上で必要になる基本的な学習方法・学習スキルの獲得を目指した初年次教育の内容を学習する。</p> <p>[渡邊 耕二／4回]</p> <p>大学において自主的、継続的な学習を進める上で必要な学術文献の理解と活用に関する応用的な事項（英語で書かれた専門書や文献の読み方、情報・文献の集約、整理、考察の方法など）について学ぶ。</p> <p>[山下 智也／4回]</p> <p>第1回から第11回までの授業で修得した大学における学習に対する考え方や学習スキルを実</p>					

	<p>際に活用できるようになることを目指し、グループに分かれて設定された教育問題についての課題演習を行う。</p> <p>授業は、プレゼンテーション、グループディスカッション、ディベート等のアクティブラーニングを取り入れる。</p>
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」「2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている。」「3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p>
授業計画	<p>[担当：田中 幸子]</p> <p>第1回：法人宮崎学園及び宮崎国際大学について沿革や建学の精神を知る。(目標(1))</p> <p>第2回：宮崎国際大学教育学部の教育カリキュラムについて知る。(目標(1))</p> <p>第3回：大学での生活において注意しなければならないことや身につけて欲しいことを理解する。(目標(1))</p> <p>[担当：菅 邦男]</p> <p>第4回：高校までとは異なり、大学の授業では自主的にノートをとることが求められる。大学における講義ノートの作り方について、具体的事例を学び、自分のノートの作り方を知る。(目標(2))</p> <p>第5回：大学において要求されるレポートについて理解し、ブレインストーミング・マッピングによるテーマの決め方、構成の仕方等を学ぶ。(目標(2))</p> <p>第6回：図書の探し方や借用の方法など宮崎学園図書館における基本的な利用方法について理解し、情報検索の方法を学ぶ。(目標(2))</p> <p>第7回：レポートの適切な書き方やまとめ方について学び、実際にレポートを書く。(目標(2))</p> <p>[担当：渡邊 耕二]</p> <p>第8回：大学での学習や研究を進める上で不可欠となる学術文献の種類を理解し、学術論文の検索方法について学習する。(目標(3))</p> <p>第9回：英語で書かれた文献を含む学術文献の構成及び内容を事例を通して学び、効果的な読み方を身につける。(目標(3))</p> <p>第10回：収集した学術文献を集約及び整理する方法を身に付ける。(目標(3))</p> <p>第11回：プレゼンテーションソフトの活用方法を含む発表方法を学び、学術文献の内容をより効果的に他者に伝えるための方法を身に付ける。(目標(3))</p> <p>[担当：山下 智也]</p> <p>第12回：グループに分かれ、教育問題に関する与えられたテーマに沿って学術文献を収集する。(目標(3))</p> <p>第13回：グループごとに収集した学術文献を要約し、レポートにまとめる。(目標(3))</p> <p>第14回：グループごとに収集した学術文献の要約を基に発表資料を作成する。(目標(3))</p> <p>第15回：グループごとに教育問題に関する学術文献の要約を発表する。(目標(3))</p> <p>期末試験</p>
学生に対する評価	<p>到達目標(1)～(3)の到達度を評価するためのレポートと期末試験の内容(70%)と到達目標④の到達度を評価するための課題演習の内容(30%)を総合的に評価する。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
時間外の学習について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと)</p> <p>事前学習：毎回次回の予告を行い、課題を提示するので、予め調べておくこと。</p> <p>事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めること。授業の冒頭で前回の授業内容についての説明を求める。</p>

テキスト	適宜資料を配付する
参考書・ 参考資料等	特になし
担当者からの メッセージ	高等学校までの学習とは異なり、大学においては自学自習が基本です。本講義では、大学での勉学を充実させるだけでなく、将来目標とする教員となるためには多くのことを学ぶ必要があることをしっかりと理解して欲しい。
オフィスアワー	田中幸子：火曜日・木曜日 9:00～12:00 菅 邦男：木曜日 15:00～17:00 渡辺耕二：金曜日 13:00～16:00 山下智也：火曜日・木曜日 14:40～16:10